

目次

第1章 アルコールを疫学的に捉える

I 飲酒には有益な作用がある (論文番号 1～35)

1. 総死亡 (論文番号1)	
1. 地中海食、生活習慣と高齢ヨーロッパ人男女の10年間死亡: HALE研究	2
2. 呼吸器・循環器系 (論文番号2～5)	
2. ワイン飲酒と急性心筋梗塞後の心臓脈管系合併症の危険性	3
3. 急性心筋梗塞後追跡患者の発症前のアルコール消費と死亡率	4
4. スウェーデンとエストニアにおける55歳と35歳の男女の冠動脈性心疾患の危険因子	5
5. 集団におけるワイン摂取と呼吸機能の正の関連	6
3. 脂質代謝 (論文番号6～13)	
6. アルコール摂取は多価不飽和脂肪酸のHDLレベルの増加とコレステロールのエステル化速度の増加を伴っている	7
7. 総コレステロール・HDLコレステロール比の14年間の変化の予測因子	8
8. HDLコレステロールの生活習慣関連要因: 米国心肺血液研究所家族心臓研究	9
9. アルコール摂取量とHDLコレステロールレベルとの非線形相関について	10
10. フランスにおけるアルコール飲料の種類と血中脂質	11
11. 高密度リポ蛋白 (HDL): アルコール・エストロゲン・フィト (植物性) エストロゲンの効果	12
12. メルボルン在住南アジア系人種における、血漿リポタンパク質 (a)、アポリポタンパク質 (a) 表現型と冠動脈疾患危険因子との関連	13
13. アルコール摂取は高密度リポ蛋白粒子、多価不飽和脂肪酸の増加、コレステロールのエステル化率の増加に関係している	14
4. 糖尿病・メタボリック症候群 (論文番号14～22)	
14. 若年女性における飲酒パターンと2型糖尿病のリスク	15
15. 中等度のアルコール消費は2型糖尿病の発症危険性を低下させる: 前向き観察的研究のメタ分析	16
16. 2型糖尿病患者で急性のアルコール消費はインスリン分泌に影響することなく、インスリンの作用を改善する	17
17. アルコールと2型糖尿病-第2のフランスパラドックス?	18
18. 閉経期の女性で中等度アルコール摂取が空腹時インスリンならびにグルコース濃度とインスリン感受性に与える効果: 無作為化対照試験	19
19. 中等量アルコール摂取、エストロゲン補充療法および身体活動はインスリン感受性を増加させる	20
20. 459人の女性におけるアルコール消費パターンと血糖コントロールの生体指標に関する断面研究	21
21. 男性におけるアルコール摂取パターンとHbA1c, Cペプチド、インスリン値について	22
22. 韓国の成人におけるメタボリック症候群とそれに関連する生活習慣	23
5. 神経系・認知機能 (論文番号23～28)	
23. 喫煙および飲酒と中年期の認知能力との関連	24
24. 11.5年間の飲酒後の認知機能: 飲酒との関連	25
25. アルコールの量・種類と痴呆のリスク: コペンハーゲン市心臓研究	26
26. ADHD (注意欠陥多動性障害) 児リスクと妊娠母の生活習慣要因および関連行動: レビュー	27
27. 高齢成人でのアルコール摂取と痴呆の危険性に関する (疫学的) 前向き研究	28

28. 高齢者における聴力低下の危険因子としての喫煙および飲酒習慣： 愛知県の定期健康診断受診者を対象とした疫学研究より	29
6. 悪性疾患（論文番号29～31）	
29. 日本におけるアルコール・喫煙・食餌と悪性リンパ腫：愛知がんセンターにおける 施設ベース症例対照研究の知見	30
30. アメリカ男性におけるワイン飲用と非ホジキン性リンパ腫：一般住民を対象とした症例対照研究	31
31. 日本における膵臓がんの疫学調査：愛知県がんセンター疫学調査の nested case-control study	32
7. その他（論文番号32～35）	
32. 日本の3地域における50歳から70歳の男性の血小板凝集能決定要因	33
33. アルコールの摂取と活性ヘリコバクターピロリ感染の間の逆相関；プリストルヘリコバクタープロジェクト	34
34. ワイン、ビール、スピリッツ摂取と感冒症を患う危険度	35
35. アルコールの種類と健康状態への影響	36

II 飲酒には有害な作用がある（論文番号36～98）

1. 総死亡・発症（論文番号36～43）

36. 日本におけるアルコール消費量と死亡率：宮城コホート研究	37
37. 日本人の健康行動と死亡率：喫煙、飲酒、運動、肥満の相乗効果 - 宮城スタディー	38
38. 総死亡を予測できる因子のなかで修飾可能な危険因子：遺伝の役割と小児期における環境因子	39
39. ロシア、ノボシビルスクでの大量飲酒、過剰機会飲酒と総死亡、循環器疾患志望の関連： 前向きコホート研究	40
40. 飲酒パターンと中年男女の死亡率	41
41. ワイン、蒸留酒、ビールと死亡率	42
42. 適度な飲酒のリスクと利点のバランス	43
43. 女性における飲酒と葉酸摂取状況の組み合わせと慢性疾患との関連	44

2. 循環器系・高血圧（論文番号44～52）

44. 中年世代の習慣飲酒：主要冠動脈疾患発症および死亡率への効果	45
45. 脳出血の遺伝的危険因子と環境要因：地域での調査の予備報告	46
46. 血清 γ -GTP、自己報告飲酒量と脳卒中のリスク	47
47. 日本人男性会社員における軽い、適度なアルコール摂取と高血圧の関連	48
48. ALDH2 アルコール飲用が血圧、心拍数、心拍数変動に及ぼす影響の検討	49
49. 日本人飲酒者におけるエタノール代謝酵素の遺伝的相違と血圧	50
50. 高血圧および正常血圧の日本人男子大学生の17年間追跡研究	51
51. フランスと北アイルランドの異なるアルコール摂取習慣と血圧との関係：The PRIME Studyより	52
52. 南アフリカ黒人における高血圧症危険因子の因子分析	53

3. 脂質代謝（論文番号53～56）

53. 血漿ホモシステイン濃度およびメチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素遺伝子型と生活習慣との関連	54
54. 血清総ホモシステイン濃度を規定する人口学的指標、健康状態、生活習慣および 血液ビタミン濃度に関する第三次米国健康・栄養調査（NHNES III）1988-1994での検討	55
55. 2型糖尿病患者における総ホモシステイン値とビール摂取量との関係	56
56. 飲酒が脂質代謝検査所見に与える影響は性別、体格指数、喫煙、アポE遺伝子多型に依存している	57

4. 消化器系（論文番号57～65）

57. 生活習慣、環境因子および表現形因子と口唇がんの関連について：	
------------------------------------	--

南スペインにおけるケースコントロールスタディから	58
58. タイにおける生活習慣と遺伝的要因の食道がんリスクに対する感受性	59
59. 食道扁平細胞癌の日本人男性におけるアルコール脱水素酵素、アルデヒド脱水素酵素、 グルタチオンS-トランスフェラーゼM1の遺伝子多型と飲酒、喫煙、飲食との関係	60
60. 米国黒人男性における食道扁平上皮癌の過剰罹患：社会階級とその他の危険因子の役割	61
61. 上部消化器癌の多中心性発生の危険因子について－腫瘍を含む切除食道の組織学的評価をもとにした分析	62
62. グルタチオンSトランスフェラーゼGSTM1、GSTT1の遺伝子多型、喫煙、飲酒、 茶の飲用と食道がん・胃がんのリスク：症例・対照研究	63
63. 食事、飲酒および喫煙習慣が胃癌の予後に及ぼす影響	64
64. 無症候者における進展した大腸癌と過形成ポリープの危険因子	65
65. 香港在住の中国人における喫煙および飲酒と結腸直腸癌：症例対照研究	66
5. 肝臓（論文番号66～70）	
66. 日本人男性アルコール依存症者における重度の慢性肝炎と重度の肝硬変の頻度の相違と、 それらに関する危険因子	67
67. C型肝炎による繊維症におけるアルコール摂取の危険程度	68
68. 韓国におけるタバコ喫煙、飲酒、B型肝炎と肝細胞がんのリスク	69
69. 飲酒、ウイルス性肝炎と糖尿病の米国黒人、白人の肝細胞癌に対するリスクの相乗作用について	70
70. 肝細胞癌発症危険度と飲酒、嘔みビンロウ、喫煙の検討：2416 HBsAg陽性、 9412 HBsAg陰性の台湾人男性コホート研究	71
6. 乳癌・卵巣癌（論文番号71～77）	
71. 飲酒と乳がん：疫学的・実験科学的エビデンスと潜在的メカニズム	72
72. 循環型性ホルモンレベルと乳癌危険因子の関連：英国1092人の閉経前後の女性の断面研究	73
73. 飲酒、飲酒パターンと閉経後乳がん発症のリスク－デンマークでの前向きコホート研究	74
74. デンマークにおける飲酒と閉経後女性の乳癌発症危険度について：前向きコホート研究	75
75. 飲酒が男性における乳癌リスクを増加させる可能性：ヨーロッパでの住民対象症例－対照試験	76
76. 閉経後の女性でのアルコール摂取がインスリン様成長因子（IGF）IとIGF結合蛋白3に与える効果	77
77. 日常的な葉酸摂取と卵巣ガンの発症、スウェーデンのマンモグラフィーコホート研究	78
7. 泌尿器系（論文番号78～80）	
78. 飲酒パターンと前立腺癌の危険：大規模コホート研究	79
79. 生活習慣と慢性腎臓病	80
80. アフリカ系アメリカ人一般男性における下部尿路症候群（LUTS）の危険因子	81
8. 精神・神経系（論文番号81～87）	
81. 原発性および二次性の群発頭痛：2つの異なる疾患か？	82
82. 年齢に関連した10年間の網膜症発症率と喫煙・飲酒 Beaver Dam眼研究	83
83. 中年および高齢日本人住民における眼球内圧と生活習慣の関連性について	84
84. 日本人中高年者における眼圧と生活習慣との関連	85
85. アルコール依存者における脳の萎縮容積測定に関する断面調査：飲酒歴と薬物使用の影響	86
86. 夜間のアルコール大量摂取後の二日酔いが記憶機能と覚醒パフォーマンスに与える影響	87
87. マンガン合金製造労働者の感情状態に関して血中マンガンとアルコール摂取は相互作用して影響する	88
9. 妊娠・出産と新生児への影響（論文番号88～94）	
88. 男性不妊症と生活習慣の関係	89

89. 喫煙、アルコール、カフェイン消費と自然流産危険度	90
90. 中等度の飲酒と早産のリスクについて	91
91. アルコール脱水素酵素2*3は妊娠中の母親のエタノール摂取と関連した 出産児の顔面形態変化に影響を与える	92
92. 出生前の母親のアルコール曝露が子供の成人時のアルコール関連問題に 及ぼす影響についての21年間の縦断研究	93
93. 出生前の胎児における一時多量飲酒曝露が、その後の7歳時の子供の認知と行動に与える影響	94
94. 妊婦のアルコール摂取が出生後21年経過した若年成人に与える効果についての分析	95
10. その他（論文番号95～98）	
95. 自然発症大腿骨頭壊死発症に関する生活習慣、アルコール脱水素酵素2および アルデヒド脱水素酵素2遺伝子多型の関連を検討した症例対照研究	96
96. 壮年男性におけるアルコール、体重、体重増加	97
97. 飲酒と病欠：J字型関係	98
98. 5-水酸化メチル-2'-デオキシウリジンは生活習慣因子とGSTM1と相関する： the Malmö Diet and Cancer cohortからの報告	99

III 飲酒は諸刃の剣である（論文番号99～112）

99. 白人と黒人における飲酒と冠疾患発症の関連について：ARIC研究	100
100. 飲酒量と虚血性脳卒中の危険因子：フラミンガム・スタディー	101
101. 頸動脈の粥状硬化に及ぼすアポリポ蛋白E、喫煙、飲酒の影響：NHLBI研究	102
102. 地域住民におけるアセトアルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型と血圧値、高血圧の頻度に関する疫学研究	103
103. アセトアルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型とアルコール摂取のコレステロールレベルへの効果	104
104. 男性においてアルコール摂取がインスリン感受性に与える効果	105
105. 男性でのインスリン感受性に関するアルコール摂取の効果：無作為対照試験	106
106. 出生前の母体のアルコール摂取と幼少期の気管支喘息による入院：住民を対象とした追跡研究	107
107. サンパウロ在住の日系ブラジル人におけるヘリコバクターピロリー血清抗体陽性者の 萎縮性胃炎と生活習慣との関連	108
108. 喫煙、アルコール消費量およびカフェイン摂取とパーキンソン病発症危険	109
109. EPI-ITALYコホートにおける自然閉経と関連する要因	110
110. 喫煙と他の生活習慣因子は女性の失禁と関連するか。ノルウェー EPICONT研究	111
111. ビールと肥満、断面的研究	112
112. 16,587人の米国人男性を対象とした食事摂取、身体活動、飲酒、喫煙の変化と ウエスト周囲径の増加の関連についての追跡研究	113

IV その他の疫学研究（論文番号113～138）

113. 日本人男性におけるアルコール摂取とガンマーグルタミルトランスフェラーゼ（ γ -GTP）の関係	114
114. 赤ワイン摂取が健常人で血清ラオキシナーゼ、 アリルエステラーゼ活性とりポタンパク質酸化に与える影響	115
115. 慢性的肝障害が肺グルタチオンホメオスタシスに与える影響	116
116. アルコール飲料に対して高感受性応答を引き起こす原因としてのエタノール	117
117. アルコール酔いによる脳代謝の低下は女性よりも男性でその程度が大きい	118
118. 適度な飲酒がプリンや炭水化物代謝に与える影響	119

119. アルコールデヒドロゲナーゼ2の多型、アルコールの摂取量、 ガンマグルタミルトランスフェラーゼレベル間の関連性	120
120. 禁酒家のレプチンレベルと依存症患者の禁酒後のレプチンレベルに差はない	121
121. 健康人が夕食をアルコール飲料とともに摂取した時の窒素酸化代謝物の急性、慢性の影響	122
122. 血液の流れと健康－本格焼酎の機能性－	123
123. アルコールに対する概日リズムの急速、遅延応答、人の深部体温変化の調査	124
124. 急速なアルコール負荷が骨格筋の代謝に与える影響、運動中の呼気ガス分析	125
125. 肝硬変の病因による栄養失調と免疫変化の差の程度：将来的研究と継続的研究	126
126. 血漿循環フィブリノゲンの安定性と適度なビールの摂取	127
127. 心拍変動から見た「酔い」の評価	128
128. アルコール性コルサコフ症候群における海馬の縮小	129
129. アルコール依存症患者の毛髪中の脂肪酸エチルエステル濃度： その他の生物学的指標と自己報告によるエタノール摂取量との比較	130
130. アルコール性肝疾患においてアルコールはアレルギー性皮膚炎症状態悪化の一因となる	131
131. 健常の高齢者におけるアルコール摂取と炎症マーカー、 プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1の関連性、健康、年齢、体組成の研究	132
132. 慢性肝疾患における大量飲酒とNO代謝産物	133
133. 味覚の遺伝学、口内感覚とアルコール摂取の関係	134
134. 日本人男性における肝細胞障害へのアルコール消費の影響	135
135. 食後の白ワイン摂取が血漿インスリンや血漿グルコースレベルに与える効果	136
136. 毎日の適量の赤ワインやアルコールの摂取は健常人の免疫系に影響を与えない	137
137. エタノールの中樞神経系での作用における性差	138
138. ビールが血漿中のウリジンやプリン基の濃度に与える影響	139

第2章 アルコールを物質として捉える（論文番号139～324）

1. 神経系（論文番号139～204）	
139. エタノール誘導性の脳部位的代謝変化とその動態、行動や認知への影響	141
140. アルコール嗜好性ラット系統の比較研究：アルコール自発摂取量に与える絶食やストレス相の効果	142
141. 若いアルコール嗜好性雌および雄ラットでエタノールの様々な濃度又は 単一濃度のエタノールの同時アクセスがエタノール摂取量に与える影響	143
142. アルコール依存症の治療のターゲットとしての nociceptin/orphanin FQ/NOPレセプター系： アルコール嗜好性ラットを用いた近年の研究の概説	144
143. 高アルコール嗜好性C57/BL10マウスの中の低アルコール嗜好性；嗜好性に影響する要因	145
144. アルコール低嗜好性ならびに高嗜好性ラットへの異なるタウリンの反応性、脳マイクロダイアリシス研究	146
145. 適度なアルコールの投与はアルコール高嗜好性ラットで部分的に忌避学習欠損を改善する	147
146. cAMP応答要素結合蛋白質遺伝子の部分的欠損はアルコール飲酒行動を促進する	148
147. アルコール高摂取量HADラットとアルコール低摂取量LADラットにおいて ニューロペプチドYがスクロースやエタノール摂取に与える影響並びに不安様行動に与える影響	149
148. 高アルコール摂取ラット（HAD）と低アルコール摂取ラット（LAD）における 脳内報酬刺激とスクロースへの異なる応答	150
149. アルコール高摂取量ラットとアルコール低摂取量ラットにおける	

部分的な脳グルコース利用におけるエタノールの影響	151
150. 高アルコール嗜好性 (HAP) マウスや低アルコール嗜好性マウスにおける EEG と ERP プロファイル、エタノール嗜好性との関連性	152
151. アルコール嗜好性、非嗜好性ラットの側坐核への DRD2 遺伝子の導入はアルコール摂取を減少させる	153
152. Nurr1 欠損マウスにおけるエタノール嗜好と回転運動の減少	154
153. Fawn-Hooded ラットにおける抗不安処置がセロトニン、ドーパミン系に与える影響、量的オートラジオグラフィ研究	155
154. エタノールの摂取と中断はアルコール嗜好性ラットの側坐核におけるドーパミン性、セロトニン性の機能を変化させる	156
155. アルコール摂取再発時における中脳縫線核中のコルチコトロピン放出因子の役割	157
156. 心理的ストレスとアルコール精神依存症	158
157. アルコールはヒト側坐核でドーパミン遊離を生じる	159
158. 男性アルコール依存症患者での D1 ドーパミン受容体遺伝子 <i>Dde1</i> の遺伝子多型と刺激欲求との関連	160
159. G 蛋白質 $\beta\gamma$ 二量体は、PKA 情報伝達を促進する際のドーパミン D2 受容体と アデノシン A2 受容体の相乗作用を仲介し、エタノール消費を調節している	161
160. ラットでエタノール摂取における tetrahydropapaveroline の役割の再検討	162
161. 2 杯のカクテル、アデノシンドーパミンと $\beta\gamma$ ツイスト	163
162. 拡散型ヌクレオシドトランスポーターの 1 型はエタノールによる酪氨酸や行動変化を調節している	164
163. ラットにおけるオペラント条件付けエタノール自己投与はアデノシン A2 受容体で調節されている	165
164. type 1 平衡型ヌクレオシド輸送体はエタノールの酔いや嗜好性を調節する	166
165. エタノールは薬と類似しているか？エタノールの中枢効果におけるアセトアルデヒドの役割	167
166. エタノール誘導性の条件付け味覚嫌悪学習におけるカタラーゼの役割、3-アミノ-1,2,4-トリアゾールを用いた研究	168
167. 中枢の NPY2 レセプターの阻害はラットでエタノールの自発的摂取を抑制させる	169
168. ニューロペプチド YY5 レセプターはオペラントのエタノール自己投与の開始、持続を調節している	170
169. メスラットにおけるニコチン、アルコールの相互作用とオペラントビジュアルシグナル検出課題における注意パフォーマンス	171
170. 状況的恐怖条件付けにおけるニコチンとエタノールの影響における神経ニコチン受容体の役割	172
171. 慢性的なエタノール摂取はラットの特定の脳領域におけるカンナビノイド受容体 (1) 遺伝子発現を調節している	173
172. マウスにおけるエタノールとカンナビノイドの急性効果によって生じる運動失調とアデノシン A ₁ 受容体アンチセンスの経口/末梢/小脳内投与による拮抗作用	174
173. モルヒネがアルコール摂取に与える促進効果はナロキソンだけではなくカンナビノイドレセプター B(1) アンタゴニスト SR141716 によっても抑制される	175
174. GABA レセプターの阻害は HPE により引き起こされるエタノール摂取の阻害効果を変化させない	176
175. ウイスキーの熟成は GABA _A レセプター応答の効果を増加させる	177
176. エタノールに嗜好を示さないラットにおける GABA _A レセプター $\beta 1, \alpha 1, \gamma 2$ のサブユニット遺伝子の新しい遺伝子多型の分子的特徴付け	178
177. エタノールによるラット海馬の GABA _A 受容体機能の調節には脳神経ステロイド生成系が関与している	179
178. 脳内アロプレグナロン濃度に関するエタノール投与・摂取の効果でみられる C57BL/6 マウスでの性差	180
179. ヒト脳の各領域ならびに細胞レベルでの CYP2D6 の発現について：アルコール依存症患者での (CYP2D6) 高発現	181

180. FynキナーゼとNR2Bを含むNMDAレセプターは急速なエタノール感受性を調節するが エタノール摂取量や条件付けの報酬効果には作用しない	182
181. NMDAレセプターにおけるエタノールの感受性	183
182. アルコールはスクロース感受性味覚神経経路を活性化させる	184
183. ラットのアルコールへの渴望、随伴行動と視床下部外側野	185
184. 線虫のエタノールに対する応答行動におけるBKカリウムイオンチャネルの中心的役割	186
185. エタノールの脳室内投与が摂取行動に与える影響と特定の脳部位におけるc-Fos免疫反応性の誘導	187
186. 食事と共のエタノール提示はラットでエタノール摂取自己反応形成を誘導する。 長期間の維持と持続時間への効果	188
187. アルコールは長期間睡眠マウス並びに短期間睡眠マウスの視索上核中のc-Fos発現に異なる影響を与える	189
188. 慢性的なエタノール消費はオスラットの視床下部におけるpro-opiomelanocortin遺伝子と period遺伝子のmRNA発現の日内変動を損ねる	190
189. 時計遺伝子の <i>Per2</i> はグルタミン酸神経系に影響しアルコール消費を調節している	191
190. エタノールとドコサヘキサエン酸がPC12細胞において神経成長因子誘導性神経突起形成や 神経特異的成長関連タンパク質遺伝子の発現に与える効果	192
191. 出生前のエタノール暴露による海馬リン脂質プロファイルの変化	193
192. 長時間の禁酒で生じる(脳)細胞増殖の一時的で特異的な亢進は海馬神経細胞新生を増加させる	194
193. <i>in vitro</i> におけるポリフェノールの強力な抗アミロイドと繊維不安定化効果： アルツハイマー病の予防と治療への関連性	195
194. ペプチドフラグメントNAPVSIPQによるエタノール誘導性発達段階毒性阻害における 神経保護とエタノール拮抗性の異なる効果	196
195. 生後4日目のラットへエタノールを投与した後のブルキンエ神経死の時間的变化	197
196. 急性エタノール処理後のマウス脳での遺伝子発現のマイクロアレイによる解析	198
197. 慢性的なエタノール消費は一時的に成人の神経前駆細胞の増殖を減少させる	199
198. 高齢ラットの脳において慢性的なアルコール摂取により引き起こされるストレス応答	200
199. 共通した遺伝子がエタノールによる自発行動量、不安様行動、ストレス軸への感受性に影響を与える	201
200. エタノール摂取と運動感作：異なった遺伝子型のマウスにおける脳のカタラーゼの役割	202
201. マウスでのプロテインキナーゼC ϵ の条件的救済はエタノールの嗜好性と催眠感受性を調節する	203
202. ラット線条体で遊離した内因性のアスコルビン酸はエタノールによる水酸基ラジカル生成を抑制する	204
203. オランザピンはアルコールに対する欲求を低下する： 薬物療法による効果とドパミン受容体のVNTR遺伝子多型	205
204. ナルトレキソン、アカンプロサート、および両者併用によるアルコール依存症の再発防止の効果： 二重盲検、プラセボ対照試験研究	206
2. 内分泌系(神経内分泌を含む)(論文番号205~217)	
205. スクロース摂取をしている副腎摘出ラットでのコルチコステロンの脳室内投与は エネルギーの蓄積を阻害し、視床下部-下垂体軸を刺激する	207
206. 様々なストレスとコルチコステロンとの相互作用はラット室傍核における コルチコトロピン放出ホルモン遺伝子発現を制御する統合的メカニズムを明らかにする	208
207. CRH1レセプターを欠損したマウスにおけるストレス誘導性のアルコール摂取の促進及び遅延	209
208. 社会的孤立はエタノールのステロイド(ホルモン)性効果に対するラットの感受性を亢進する	210
209. 機能的な副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH)受容体欠損マウスでは、 ストレスによるアルコール摂取の増強が遅延して(生涯)持続する	211

210. アルコールはラットの副腎髄質機能とストレス応答を変化させる	212
211. エタノールはCRF 1 レセプターを通して中枢扁桃体中のGABA性伝達を増強する	213
212. コルチコトリピン放出ホルモンCRF 欠損マウスによって明らかとなったCRFが エタノールの摂取量、感受性、報酬系におけるCRFの役割	214
213. アルコール依存性患者における視床下部-下垂体-副腎軸の解毒への適応は アルコール中毒の家族歴の影響を受ける	215
214. 長期間のアルコール摂取は視床下部室傍核中の小細胞性の神経細胞において CRHやバソプレッシン免疫反応性とmRNA量の可逆的抑制を引き起こす	216
215. 神経下垂体においてアルコール耐性に寄与する全体的なチャンネルの可塑性	217
216. エタノールはストレス応答とラット組織におけるインシュリン結合性に影響を与える	218
217. ショウジョウバエで神経系インスリン情報伝達はエタノール中毒を制御している	219
3. 肝臓 (論文番号218 ~ 247)	
218. マウスのアルコール依存性の肝毒性とミトコンドリア機能障害におけるiNOSの役割	220
219. エタノール依存性の肝毒性ストレスに応答したミトコンドリアのプロテオームの修飾	221
220. エタノールを投与したp53欠損マウスにおける肝細胞死の抑制と肝臓異形成の早期出現	222
221. ベタインやタウリンの投与はエタノールと四塩化炭素投与によってラット肝臓で誘導される 肝繊維化と脂質過酸化を妨げる	223
222. マウスの脂肪肝モデルで酸化的DNA傷害とDNA修復酵素の発現が逆相関している	224
223. S-アデノシル-L-メチオニン; 肝障害の治療における役割	225
224. S-アデノシル-L-メチオニンと動物モデルにおけるアルコールによる肝臓病との関連、 人における初期介入の関係	226
225. S-adenosylmethionine (SAME) はマウスにおける急性アルコール誘導性肝毒性に対して保護作用を示す	227
226. CYP阻害剤 1 aminobenzotriazoleはラットやマウスにおける アルコール誘導性肝障害に関連する酸化ストレスを阻害しない	228
227. エタノールを摂取させたラットからの肝細胞においてベタインは上昇した S-アデノシルホモシステインレベルを低下させる	229
228. S-アデノシルホモシステインはマウスや肝細胞においてTNF-alphaによる肝毒性への感受性を高める: アルコール性肝障害における有力な病因的要素	230
229. Baxはvoltage -dependent anion channelと相互作用し、ラット肝細胞でエタノール誘導性細胞死を媒介する	231
230. マウスにおけるエタノールによるTNF alpha誘導性のRasの活性化が 肝障害とは無関係に肝細胞の増殖を促進する	232
231. エタノール誘導性高ホモシステイン血症とマウスのアルコール性肝障害におけるTNF -alphaの役割	233
232. ラットにおけるアセトアルデヒドの蓄積はクッパー細胞のTNF -Alpha放出を抑制し、急性肝炎を緩和する	234
233. マウスにおいて、エタノールが原因となるTNFalpha誘導性のrasの活性化が 肝障害とは非依存的に肝細胞の増殖を促進する	235
234. S-アデノシルメチオニンと5'-メチルチオアデノシンによる リポ多糖誘導性のTNF α プロモーター活性の阻害	236
235. NFkappaBの活性化の抑制が亜鉛によるLPS誘導性TNFalpha産生と肝障害の阻害に関係している	237
236. 慢性的、自発的にアルコール摂取をさせたラットモデル肝臓におけるマイクロアレイ解析	238
237. ラットにおけるアルコール性肝障害はPPAR{alpha}制御遺伝子の 発現の減少と関係があり、PPAR{alpha}の活性化によって改善される	239
238. ペルオキシソーム増殖薬応答性受容体 (PPAR α) はアルコールによる肝障害を防御する	240

239. ピオグリタゾン	c-Metの発現誘導によってラットのアルコール性脂肪肝の進展を阻止する	241
240. 食餌性飽和脂肪	は脂肪酸代謝と膜組成を変えることにより、ラットにおけるアルコール性肝毒性を弱める	242
241. ヒビとヒト肝臓	におけるアルコール性肝疾患の遺伝子発現プロファイリング	243
242. アルコール誘導性肝細胞障害モデルとしてのWIF-B細胞		244
243. エタノールの慢性的胃内投与	マウス肝臓における大規模な遺伝子プロファイリング	245
244. エタノールがKupffer細胞	のエンドトキシン感受性を変化させる	246
245. Ethyl pyruvate	がマウスにおける急性アルコール誘導性肝障害と炎症を改善する	247
246. ヒスタミン2塩酸塩	はラットにおける初期のアルコール誘導性肝障害を保護する	248
247. ラットの肝臓と培養肝細胞	において慢性的なエタノール消費がinterleukin-1が媒介するシグナル伝達を促進する	249
4. その他のアルコールの生体への影響 (論文番号248 ~ 259)		
248. 慢性的なアルコールの消費	がラット胃腸系のエタノールやアセトアルデヒド代謝系に与える効果	250
249. 高濃度のアセトアルデヒド	がニコチン性コリン作動性と $\alpha 2$ アドレナリン性作用を通して小腸のエタノール吸収の阻害に与える寄与は少ない	251
250. 低濃度のエタノール	がヒトの腸の細胞で細胞死を誘導する	252
251. アセトアルデヒドデヒドロゲナーゼ2遺伝子	の大量発現はヒト臍帯静脈内皮細胞におけるアセトアルデヒド誘導性の細胞障害を抑制する: ERKとp38 mitogen-activated protein kinaseの役割	253
252. アルコール	は骨格筋や心筋でc-myc mRNAやそのタンパク質を増加させる	254
253. 内皮接着分子の発現	におけるアルコール消費の影響	255
254. ラットでカルシウムカルバミド	とエタノール投与は血中アセトアルデヒドの上昇、心筋アポトーシス、アポトーシス調節遺伝子の発現を変化させる	256
255. 中等度と高度のアルコール消費	は循環系接着分子レベルに異なる影響を与える	257
256. ラットの血圧、血漿中の一酸化窒素	や抗酸化物のアルコール誘導性応答変化	258
257. エタノールによるsterol regulatory element-binding protein-1	による転写後調節がラット肝臓のclass Iアルコール脱水素酵素を誘導する	259
258. 適度な飲酒	はラットやヒトにおいて肝臓mRNAをアップレギュレートすることによりパラオキシナーゼを刺激する	260
259. 膵臓腺房細胞	におけるエタノールの毒性: 非酸化脂肪酸代謝産物による媒介	261
5. 特定の種類のアルコール飲料の効用 (論文番号260 ~ 296)		
260. 赤ワインのポリフェノール	は内皮酸化窒素合成酵素の発現を増加させ、内皮細胞からの酸化窒素分泌を促す	262
261. 赤ワインや葡萄	中に含まれる天然成分リスベラトロールによるプロテインキナーゼCKII活性の阻害	263
262. 赤ワインのポリフェノール	は腸ガン細胞の成長を阻害し、マイトジェン活性化タンパクキナーゼの活性パターンを変化させる	264
263. 実験モデル	におけるポリフェノールの抗血栓症効果: 適度なワイン摂取による血管のリスク減少メカニズム	265
264. J774齧歯類	のマクロファージによるリポ蛋白質の酸化は赤ワインポリフェノールにより阻害されるが、エタノールによる阻害は起こらない	266
265. 赤ワインポリフェノール	はLDLレセプターの発現と活性を増加させ、ヒトHepG2細胞からのApoB100の分泌を抑制する	267
266. ワインフラボノイド	のLDL酸化やアテローム性動脈硬化症に対する保護効果	268
267. 赤ワイン	中の抗酸化ポリフェノール成分の吸収と代謝	269
268. 肝ガン発症ラット	における葡萄や赤ワイン中に含まれるファイトアレキシンの	

リスベラトロールの脂質低下作用	270
269. 赤ワイン成分のポリフェノールであるリスベラトロールは虚血再灌流、 血小板活性化因子または酸化物により誘導される過酸化物質依存性炎症応答を防御する	271
270. リスベラトロールはアンジオテンシンII誘導性のAkt/プロテインキナーゼBやp70 S6 キナーゼの リン酸化を抑制し、その後のラットの動脈平滑筋細胞における肥大を抑制する	272
271. cDNAマイクロアレイを用いた人卵巣ガン細胞におけるリスベラトロール誘導性遺伝子発現プロファイルの 遺伝子レベルの分析	273
272. マウスに経口投与後の組織中の癌予防因子ポリフェノールである14C-トランスリスベラトロールの寄与	274
273. リスベラトロールダイマー varepsilon-viniferinによるヒトチトクロームP450酵素の阻害の違い： アルコール飲料中のリスベラトロールとポリフェノールとの比較	275
274. 赤ワインポリフェノールはレドックス感受性メカニズムを通して豚の心大動脈中の 内皮依存性のEDHFによる弛緩を引き起こす	276
275. ワインポリフェノールとエタノールはスーパーオキシドをスカベンジせず、 内皮細胞の一酸化窒素産生にも影響を与えない	277
276. 赤ワインがブタの冠動脈におけるホモシステイン誘導性血管内皮障害を保護する	278
277. アルコールを除いた赤ワインは動脈壁の脂質過酸化の阻害と無関係に アポリポプロテインE欠損マウスでアテローム性動脈硬化症を減少させる	279
278. タナ赤ワインの中性画分の酸化ストレス誘導性細胞死に対する細胞保護作用	280
279. アルツハイマー様の傷害における保護因子としての赤ワイン微量栄養成分	281
280. 赤ワイン摂取が腎臓において遊離脂肪酸組成に与える影響	282
281. ワインや他の植物由来の飲料の抗酸化能力の比較研究	283
282. 植物ポリフェノールは胃内病原体ヘリコバクターピロリにより分泌される毒素VacAを阻害する	284
283. 白ワインと赤ワイン抽出物中にふくまれるエストロゲン様活性	285
284. ポリフェノールが高濃度に含まれたシャルドネ白ワインが糖尿病ラットに与える影響	286
285. 肥満と糖尿病 ウイスキーに、糖尿病性合併症を予防する成分	287
286. Fischer 344ラットにおいて、ビール摂取がazoxymethan誘導性大腸ガンの発ガンを阻害する	288
287. ビールコンジナーはムスカリン様アセチルコリンレセプターを介して胃腸運動を刺激する	289
288. ビールによるマウスの肝臓と肺におけるヘテロサイクリックアミン誘導性DNA付加体形成の阻害効果	290
289. フェノール抗酸化物質の質と食物中の質：2種類のビールが動物のアテローム性動脈硬化に与える効果	291
290. ラットのD-ガラクトサミン誘発肝障害に及ぼす大麦焼酎粕の影響	292
291. 清酒中に含まれる α -エチルグルコシドの新たな機能性	293
292. 樽酒中の成分同定とその健康増進効果	294
293. 乳酸菌IFO-12005を用いて発酵させた γ -アミノ酪酸を多く含む米焼酎粕の高血圧自然発生ラットへの影響	295
294. 大麦、サツマイモ、米焼酎の蒸留後スラリーから製造した酢の生理活性のin vitroでの評価	296
295. アルコール分析に応用できるエネルギー調整方法	297
296. 醸造食品の機能性	298
6. アルコール飲料の味に影響を与える要因 (論文番号297 ~ 300)	
297. マルーラの果肉、ワイン、スピリッツの生成過程における商業用酵素の比較	299
298. 清酒中の新規機能性糖質について	300
299. 清酒の嗜好性と清酒摂取による代謝パラメーターの変動との関係	301
300. アルコール関連性または中性刺激の官能評価、刺激強度の精神生理的評価	302

7. アルコールの影響を和らげる飲料 (論文番号301 ~ 304)	
301. 年齢依存的にエタノールによって誘導される酸化ストレスの緑茶による保護作用	303
302. 緑茶ポリフェノールのepigallocatechin-3-gallateはHepG2細胞をCYP2E1依存的毒性から保護する	304
303. Hydrangeae Dulcis Folium (アマチャ) 抽出物がラットにおいて エタノールとリポ多糖によって誘導される肝障害を抑制する	305
304. ココア抽出物はラットで初期アルコール誘導性肝障害に対する保護効果を有する	306
8. 物質としてのアルコールのその他の研究 (論文番号305 ~ 324)	
305. 乳房組織における多環式芳香族炭化水素DNA adductレベルへの アルコール消費量とGSTMI遺伝子型の相互作用	307
306. ラットでIL-1とTNFの拮抗薬はエタノールによる骨折治癒過程の抑制を防ぐ	308
307. アルコール消費はメラノーマ腫マウスで体重減少を促進する	309
308. ラットにおけるビール摂取の因果関係、急速な抗不安や失調性効果と退薬症状誘導性不安	310
309. 雄のエタノール嗜好性AAラットの母からの分離はエタノール摂取の獲得を変化させる	311
310. エタノール探索行動の再発に与えるストレスと薬物の相加的効果; コルチコトロピン放出因子やオピオイドメカニズムの同時活性化の役割と依存の履歴による悪化	312
311. アルコール嗜好性AAラットにおいてメラノコルチンレセプターリガンドが エタノール摂取やオピオイドペプチドレベルに与える影響	313
312. エタノールの前投与は味覚嫌悪学習におけるエタノールとコカインの相互作用を減少させる	314
313. フーゼル油が動物の二日酔いモデルに与える影響	315
314. アルコール中毒における紅茶の抗酸化作用	316
315. 適度なアルコール摂取がABCA1が媒介するコレステロール流出を増加させる	317
316. マウスによるエタノール摂取におけるfynチロシンキナーゼの役割	318
317. 酸化ストレスとしてのミトコンドリアのALDH2欠損	319
318. マウスの大量飲酒モデルにおいてエタノールはToll-like receptorを介して 誘導されるサイトカイン応答と <i>Escherichia coli</i> への先天的抵抗性を抑制する	320
319. Fasとcaspaseカスケードによって媒介される細胞死の誘導を介した Hop Bitter Acids (Beer Aroma) によるガンの化学的予防機構	321
320. エタノール曝露はエンブリオニックオーガナイザーの遺伝子発現に影響を与え、 レチノイン酸レベルを減少させる	322
321. アルコール誘発性胎児小頭症における転写制御因子Pax6の重要な役割	323
322. エタノール曝露時の亜鉛補充はマウスでの(エタノールの)催奇形作用を軽減する	324
323. 幼児ラットにおいてアルコールと非アルコールフレーバーの間で、 刺激前曝露は条件付け味覚嫌悪の生成を減少させる	325
324. 早産の出生後ストレスはアルコールを与えた幼児ラットで行動を悪化させる	326

第3章 飲酒行動およびその影響を理解する (論文番号325 ~ 380)

1. 飲酒行動に関する社会学・心理学的研究 (論文番号325 ~ 374)	
325. 思春期における非行と出生前アルコール曝露の関連	328
326. アルコール依存症者における幼年期の心的障害	329
327. 不法な薬物使用の世界へ: 曝露機会とアルコール、タバコ、マリファナ、コカイン使用に関連した機序	330
328. 飲酒開始年齢と飲酒後不慮の事故	331

329. 国民の一般集団における初回飲酒年齢と現在の飲酒指標との関連	332
330. 日本人中学生における飲酒、喫煙および溶剤吸入の生涯普及率：伝統と都会化	333
331. 早期飲酒に関連した公衆衛生問題についての10年間追跡研究	334
332. 大学1年次から青年期早期にかけての多量飲酒とストレス、 緊張を低減させるための飲酒、性別や性格との関係	335
333. 二日酔い症状スケールの開発と確認：大学生における二日酔い症状の罹患率と関連	336
334. 思春期における散発的な多量飲酒行動の経過と青年期の健康状態との関連	337
335. アルコールによって得られる快樂への期待や仲間の非行行動・仲間の違法薬物使用は 未成年者における衝動性と飲酒行動の関係に影響を与えるか？	338
336. 反社会的な生活習慣が健康に与える影響	339
337. 歯の外傷の生涯有病率の増加と過去の歯以外の外傷や精神的苦痛、アルコール多量摂取との関連	340
338. 人口消費モデル、アルコール・コントロールの実践、およびアルコールに関連した交通事故死	341
339. 臨床指標、生物学的マーカーとCAGE質問票の総合使用による大規模住民の中からの 重症アルコール多飲者の同定	342
340. 社会人類学的、精神社会学的要因の代謝症候群との関連。lund地域における「女性の健康」研究より	343
341. 多くの不健康行動要因を規定する社会人類生態学的要因	344
342. フランスにおける喫煙、アルコール消費、低身体活動、肥満： 個人および地域における決定要因の多面的分析	345
343. ドイツにおけるアルコール消費と関連する要因	346
344. 9月11日のテロリスト攻撃事件以降のニューヨークマンハッタンにおける タバコ、アルコール、マリファナ使用の増加	347
345. ストレス関連性の飲食・飲酒行動とBMIおよびこの行動の予測因子について	348
346. 健康関連行動間に見る相関：成人の七年間追跡調査	349
347. ヒトでストレスとアルコールが主観的状态に与える効果	350
348. アルコール摂取後、短期的に食欲減少がおこらないのは アルコールが含まれていると確信する事には関与しない	351
349. アルコール消費と炭水化物欠乏性トランスフェリンによる体水分含量への影響	352
350. 縦断的解析による壮年期における生活上の出来事とアルコール消費との関係	353
351. 米国の高齢者の飲酒行動：国民健康調査1997-2001	354
352. 75歳以上の高齢者の飲酒パターンとその規定要因： 地域における高齢者の機能評価と管理に関するMedical Research Councilトライアルの結果から	355
353. アルコールスクリーニングテストの結果と治療歴を用いた、 退役軍人プライマリーケア患者における危険飲酒の重症度の評価	356
354. 週末の大量飲酒と殺人について：ロシアにおけるアルコールと暴行事件の社会的関連	357
355. 自殺念慮と飲酒の関与：MATCH研究の解析	358
356. 単極性うつ病、生活状況の脆弱性と問題対処のための飲酒の関連について	359
357. オーストラリア全国調査で明らかになった精神障害診断統計便覧第4訂診断基準による 重症うつ病の頻度と関連因子	360
358. 都市に住む黒人若年者におけるうつ症状と飲酒の関係に関する縦断研究	361
359. 就業中とそれ以外の精神社会的状況と精神の不健康状態：うつ症状、精神障害、多量飲酒	362
360. ニューヨーク西部におけるアルコール飲料の嗜好と飲酒者・非飲酒者の特徴	363
361. 飲用するアルコール飲料の種類と自己申告健康状態との関連	364

362. アメリカの世帯標本におけるアルコール消費と健康増進活動との関係：余暇の身体活動量との関係について	365
363. 飲酒量及び飲酒パターンと疾患発症との関係について：概説	366
364. 壮年期男女における飲酒パターンと死亡の関連	367
365. 若年女性における飲酒パターンと2型糖尿病の危険性について	368
366. 飲酒パターンと非致死的心筋梗塞の危険：一般集団における症例対照研究	369
367. 飲酒パターンと管理医療プログラム（健康保険）の利用度	370
368. 基本健康診査受診者の基本属性：JPHC研究ベースライン結果より	371
369. 日本における栄養サプリメント使用者の人口統計学的特徴、生活習慣、健康状態、および栄養摂取状況	372
370. ワイン飲酒者ではメタボリック症候群の頻度が低い－飲酒習慣か他の生活習慣か？	373
371. 日本在住日本人とハワイ在住日系アメリカ人における循環器疾患危険因子の相違：INTERLIPID研究	374
372. 冠動脈疾患の危険因子の集積：生活習慣との長期的関連	375
373. フランスにおける飲酒と食事－生活習慣の大きな役割	376
374. フランス、スウェーデンの自動車産業労働者における婚姻状態と循環器危険因子	377
2. 有害飲酒行動の改善（論文番号375～380）	
375. 高齢の有害飲酒者に対する短期介入が飲酒量に与える影響の検討	378
376. アルコール依存症の経口トピラメート療法：無作為対照試験	379
377. 飲酒量を減らしなさい：過剰にアルコールを消費する人たちへの （インターネット）ウェブを基にした指導介入	380
378. 社会的規範の認知キャンペーン：飲酒に関して自己認識している規範の変化と飲酒量の変化の関連	381
379. 飲酒に関する社会規範を是正するためのキャンペーンが学生の飲酒を減少させられない理由の検討	382
380. 禁酒への社会的ネットワークとアルコール中毒者更生会（断酒会）の継続的な影響について	383